

第2章

関係機関との連携

第2章

関係機関との連携

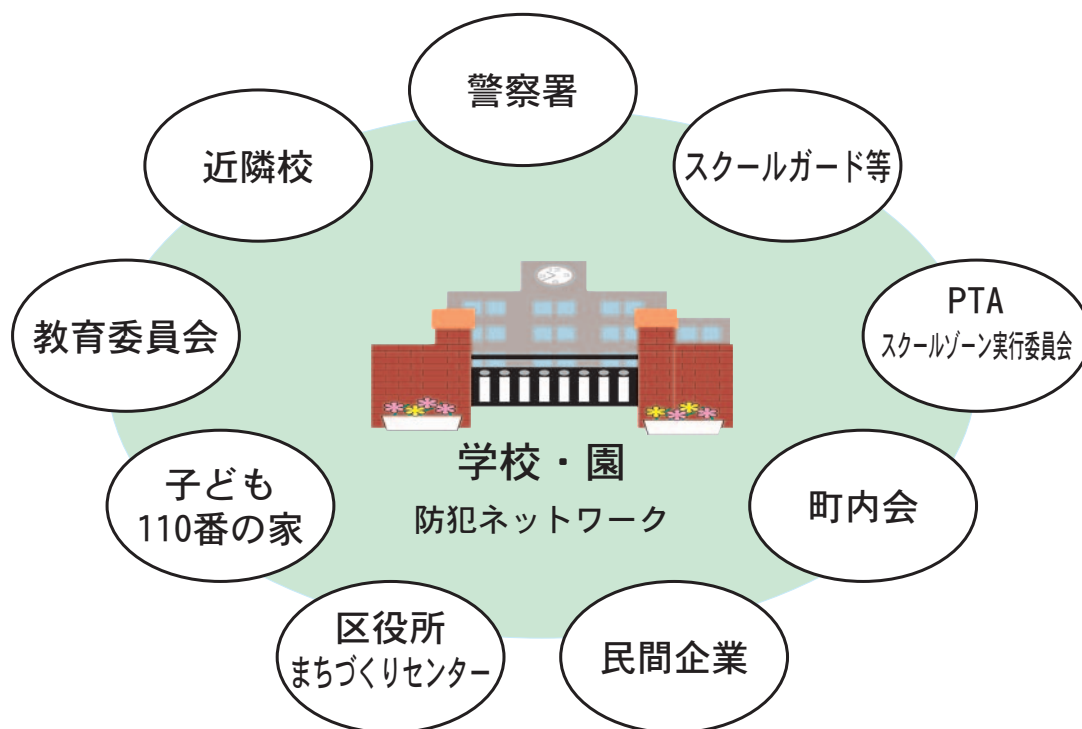
地域で見守る子供の安全

近年、子供たちの安全を脅かす事件の報告が増えています。そのため、子供の安全確保に対する学校関係者や保護者、地域住民の関心は非常に高まっています。

これまで学校や地域が独自に取り組んできた安全確保の活動にも変化が見られるようになってきました。パトロールの時間帯や方法を工夫して多くの人に協力していただけるような取組も広がっています。

子供たちが不審者に遭遇したり被害に遭ったりするのは、ほとんどが放課後の時間帯です。ですから、子供たちの安全を確保するためには、学校だけではなく関係機関や地域・保護者とも連携する取組が効果を発揮しています。

ネットワークづくりと地域で見守る子供の安全



関係機関や地域との連携

ネットワークのメリット

- ★ 子供の安全確保をより確かに！
- ★ 時間や場所の「死角」を減らす！
- ★ 定期的な会議の設定を！
- ★ 情報交換の場の設定を！
- ★ 実行委員会を立ち上げることも有効！

担当者が替わっても活動が継続する組織と意識づくりを！

1 「子ども110番の家」との連携

「子ども110番の家」とは

子どもが不審者から声を掛けられたり、付きまとわれたりした場合に、助けを求めて避難できるように、学校や町内会等があらかじめ協力を依頼してある民家や商店等のことをいいます。校区内にたくさん配置することによって不審者に対する抑止的効果だけでなく、子供の安全確保に効果を発揮しています。

子供たちの避難場所

(1) 子ども110番の家(ステッカー・プレート等)の役割とその意義

- 登下校、帰宅後、週休日や祝日、長期休業中の事件・事故発生時の避難場所の確保
- 突然の落雷や豪雨の緊急避難箇所として児童・生徒の安全確保
- 校外学習時に通る道筋の安全確保
- 不審者・犯罪者の侵入を未然に防ぐ危機管理（抑止力）



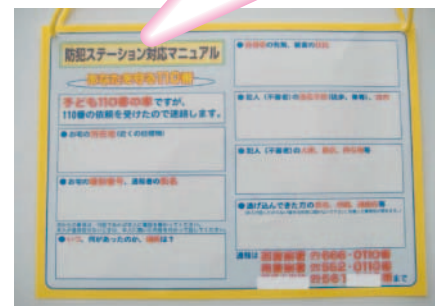
(2) ステッカー・プレート等の工夫

避難してきた子供に確認する内容例

ステッカー等の工夫



表) ラミネート加工



裏) 対応マニュアル



シール・ステッカータイプ



プラ板吊り下げタイプ
(蓄光式)

この他に、表面シールタイプ・夜光反射材文字式ステッカータイプなどもあります。警察・防犯協会、町内会・まちづくりセンター、学校・PTA、などの協力で作成されています。

(3) 子供とのつながりを深める取組

STEP 1

「子ども110番の家」を書き込む
安全マップ（ワークシート）に「子ども110番の家」を書き込むなどの活動を通して、存在を認識させます。

STEP 2

協力者に来校していただく
「子ども110番の家」の協力者に集団下校訓練時などに来校していただき、児童・生徒と対面する場を設けます。

STEP 3

オリエンテーリング
「子ども110番の家」の人との関係をさらに密にするには、「子ども110番の家オリエンテーリング・シールラリー」など、互いに楽しみながらの活動が有効です。



STEP 4

協力者対策会議
「子ども110番の家」協力者対策会議の開催などを定期的に開催します。交流と点検から新たな情報入手が期待できます。登録が少ない地域への協力のお願いができ、地域の健全育成の推進にも役立ちます。

○ 安全マップにかかわった取組の例

1) 地区懇談会・交流会の実施

「子ども110番の家」の人だけでなく、広くパトロールボランティア（保護者・地域の方々）との顔の見える関係を築くために地区懇談会や地域交流会を実施します。



2) 「子ども110番の家」研修会

「子ども110番の家」などへの実際の駆け込み訓練や警察への通報訓練を行うなど、具体的な対処方法を身に付けさせます。

このような研修会は、役割分担、連絡体制の整備・強化にもつながります。

2 学校間の連携による取組

(1) 小・中学校の連携

同一地域内の小・中学校間の連携づくり

①生徒指導小・中学校連携事業の活用(札幌市教育委員会の事業)

北区のある地区では、小学校と中学校とが連携し、地域の方々の協力を得て、同じ地区内の児童生徒の安全確保を目的に、足並みを揃えて、同じ取組を行っています。

同じ地区内7つの小中学校の連携(小:5校、中:2校)

■生徒指導小中学校連携事業の「小中交流会議」を活用

◆情報連携・行動連携できる関係の構築

- ・共通の腕章作成(事業の予算を使用)
- ・各校のPTAとボランティアの方々による地域パトロール・登下校時の通学路の見守り活動等

情報の共有化
・行動連携



PTAボランティアと一緒に登校

【期待される効果】

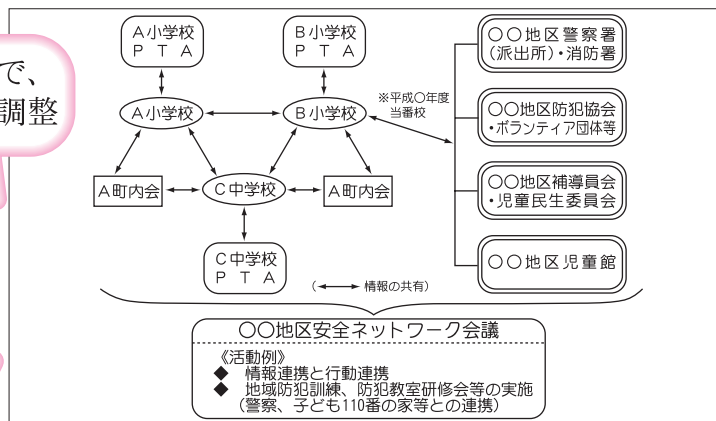
- ★ 地域の防犯意識、犯罪抑止力の高まり
- ★ 子ども・保護者の安心度の高まり
- ★ 小中学校共通の取組に対する信頼感の深まり

②中学校区の既存の組織を母体とした安全ネットワーク

■中学校区青少年健全育成推進会の組織を活用する例

〔○○中学校区〕

ケースバイケースで、情報の伝達範囲を調整



学校を中心とした地域関係団体との安全(情報)ネットワークの構築

発信する情報内容や対処方法に差異が生じないような学校間の情報連携・行動連携が大切

【期待される効果】

- ★ 情報の素早い発信と共有化
- ★ 関係する部門の連動した防犯行動が素早く始動
- ★ 学校と地域・家庭との連携強化、つながりの深化

(2) 幼稚園・小・中学校と高等学校の連携

あいさつ声かけ
運動

幼児・小中学生に生まれる
安心感

登校時間に高校生から小・中学生に「おはよう」とあいさつをしています。このような日常の取組から、お互いに声をかけやすい関係をつくっています。

このことによって、小・中学生が不審者に遭遇したり、被害に遭いそうになったりした時に、高校生に助けを求めることができるような関係につながっていることが期待できます。

高校生から「おはようございます」



小・中学校には心強いお兄さんお姉さん



地域美化活動を通じて地域の顔
に

休みの日には、各部活動の生徒が学校周辺の地域のごみ拾いをしています。この活動によって近隣の方々から声をかけていただくことが多くなり「顔見知り」が増え、困ったときに声をかけられる関係ができます。将来的には生徒会活動の一つとして位置づけて全校で取り組む計画です。高校生が地域の「顔」として安全確保にも一役かうことができます。

「こんにちは」「ありがとう。ご
くろうさま」こんな会話が生まれて
います



安全確保に
一役



「僕の家はあっちだよ」「気を
付けてね」

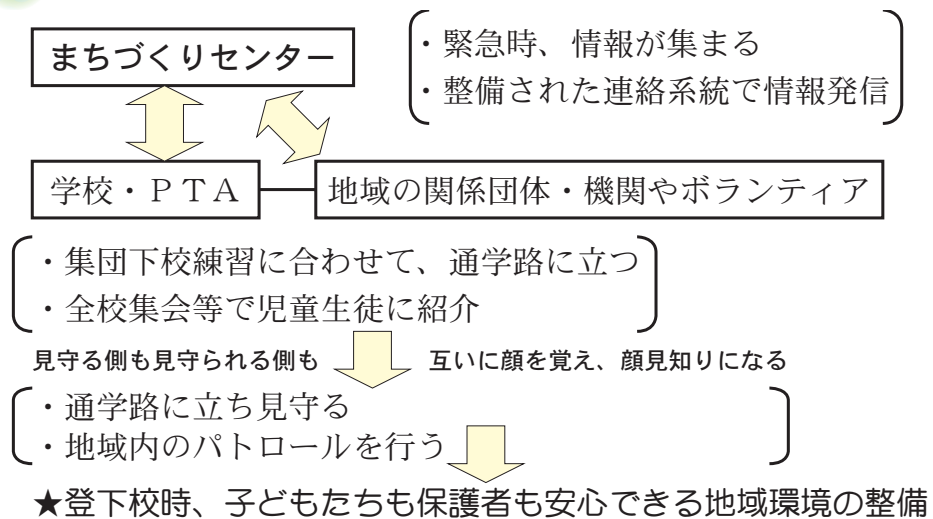
このような取組を通して、**幼児や小・中学生に安心感**が生まれています。同時に、地域の中で連携を図ることによって**地域の安全**を確かなものにしていきます。

3 まちづくりセンターを中心とした防犯体制

これまでの学校単独の取組から、まちづくりセンターを中心とした地域ぐるみの防犯体制づくりが、多くの地域で進められており、子どもの安全確保の取組として機能し始めている地域もあります。

地域が一体となった情報連携行動連携

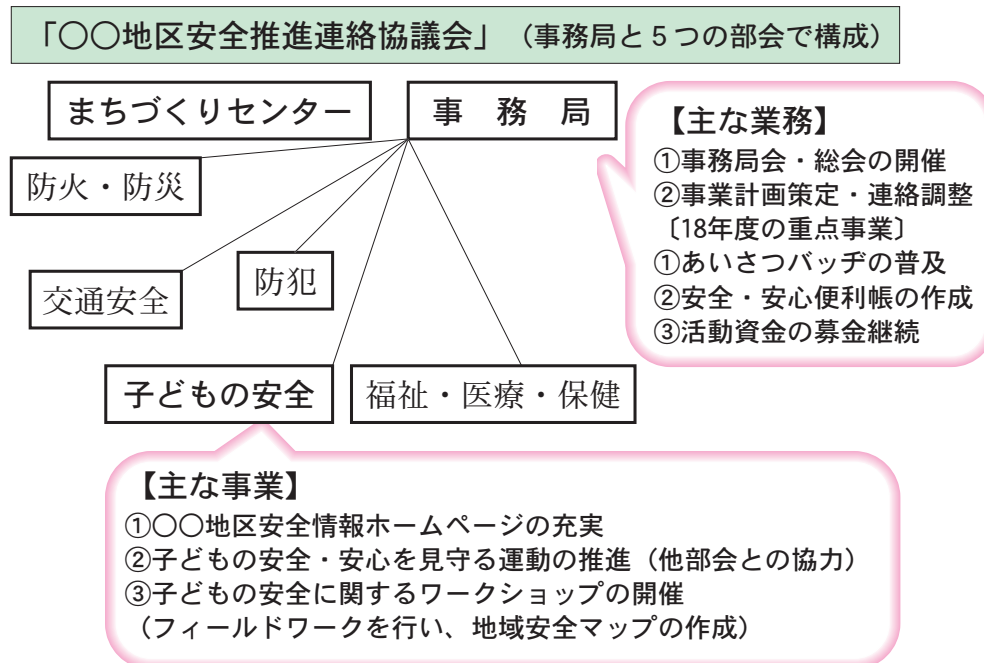
(1) 情報の発信拠点として機能している例



安全で安心なまちづくり

(2) 地域の関係団体や機関をまとめ、新たな組織をつくり取り組む例

5つの部会には、地域の安全にかかわる30の団体・機関（連合町内会、社会福祉協議会、福祉のまちふれあいセンター、民生児童委員協議会、各学校PTA、消防分団、交通安全推進委員会等）が参加。横断的に連携するゆるやかな組織を構成し、活動している。



ホームページアドレス

(3) 「市民まちづくり局振興課」ホームページの活用

まちづくり活動事例集の中に、まちづくりセンターが中核となり、地域ぐるみで子どもを見守る先進的な取組例が紹介されています。
http://www.city.sapporo.jp/shimin/shinko/machicen/machicen_01.html

4 スクールガードの方々との連携

校区内安全確認

平成17年度から文部科学省の事業により、各小学校にスクールガードが配置されました。防犯に対する経験が豊富なスクールガードリーダーと協力しながら、地域にお住まいの方がスクールガードとなって、人通りの少ない場所や危険につながりそうな場所に目を配ったり、定期的に校区内を巡回したりしてくださっています。

どんな活動をしているのかを知ってもらうのも大切です。

声をかけるためには子供たちと顔見知りになることが大事だね。

危険箇所の
発見



スクールガードリーダーとスクールガードの方々

子供と知り合
う場の設定を

皆さんの安全をより確かなものにするために校区内を回って危険な場所を探したりもしているんだよ。

スクールガードの方を紹介します。顔を覚えてくださいね。あいさつがしっかりできるといいですね。



全校朝会でスクールガードの方々を紹介

情報の共有化
が安全性を高
める

スクールガードの方々が連絡を取り合い、協力して巡回したり、スクールガード同士で情報交換をしたりすることも効果的です。

近隣の学校が協力してパトロールで使用する腕章等を共通な物にしたり、同じお便り（不審者情報）を発行したりして、情報を共有することも子供たちの安全を高めていくためには有効です。

5 民間企業との連携

民間の企業や郵便局などもパトロールや子ども110番の家の活動に協力しています。平成17年度からはコンビニエンスストアの協会もセーフティステーション活動を展開しています。このように、民間の企業とも連携を図りながら地域の子供たちの安全を確保しようとする動きが広がっています。

タクシー会社の
校区内パトロール

○ タクシー会社との連携による放課後のパトロール活動

校区内にお住まいのタクシー会社の社長さんが、学校の取組を知り、会社として社会貢献できないかを検討した結果、パトロールの協力を申し出ていただきました。

タクシーは
毎日2台のタクシーで放課後の2時間
公園での子供の様子も見ながら 巡回

学校では
全校朝会にお呼びする
定期的にお礼のカードや手紙を
届けている

「ありがとう」の気持ちが
↓
「がんばろう」の気持ちを
生み出す

気持ちをつなぐコーディネート
の工夫が継続の原動力に



パトロールを開始するタクシー

- ・無理のない活動を
- ・不審者だけでなく危険な遊びにも目を配る
- ・何かあったら連絡を ・互いのメリットを探る
- ・子供が身近に感じられる工夫を

開始時と終了
時が情報交換
の場に

ハイヤー協会の
取組



市内を走る全車両に
ステッカーを貼ってパトロール



掲示用ステッカー

市内を走る全
車両

「こんな地域にしたい」「地域でこんな活動を展開したい」という熱意が何より必要です。さらに、保護者を含め地域にお住まいの方々が「協力したい」「自分も参加してみたい」と思うような『無理なくできる企画』が活動の広がりには必要です。

様々な機関との連携を図ることで質的にも量的にも活動が確かなものになります。そのために、学校は人々の思いを紡いでいくようコーディネートしていくことが大切です。

6 パトロールボランティア活動の展開

町内会やPTA
が主体となって
(まちづくり
センターが
コーディネート)

「～のついでに」

下校時間帯に
合わせて

犯罪者や不審者・変質者に「この地域は仕事がしづらい」と思わせる抑止的効果を高める活動の1つに「パトロール活動」があります。地域やPTAが主体となって行われている「いつでも、どこでも」選択できる活動と「時間や場所を決めて」定期的に行われている活動を紹介します。



自作のプレート



腕章



犬の散歩時につけるパトロールグッズ



バンダナ



自転車用プレート



車のダッシュボードに置いて

～ PTA事務局の方のお話 ～

日常生活を変えずにパトロール活動ができるように工夫しました。協力者はプレートや腕章を付けてもらうだけの活動です。不審なことを発見した時には、警察に通報、学校に連絡をしていただくことになっています。

様々な場所や時間帯で目に触れるようにしたことが抑止的効果を高めています。

下校時間帯や放課後に協力者が多ければ多いほど効果的です。

協力をいただきやすいように腕章等のデザインや形状も工夫しました。



時間と場所を決めて

はじめてみませんか。日常的な定期的パトロール！は

パトロールボランティアは **3Kで**

- 犯罪、事故、災害の被害を未然に防止すること
- 地域の皆さんが安全に対する関心を高めること
- パトロールに参加することで地域の連帯感を醸成することなどに、つながります。

気楽に	気長に	危険なく
気負わず、日常の生活の一部として、気楽にやりましょう。	短期間では、効果は実感できません。気長に続ければ、やがては地域安全の輪は広がり、犯罪の起きにくい環境が作りだされます。	せっかくパトロールしても事故に遭ったり、ケガをしたりしては続けることが困難になります。危険を回避し安全に続けることが大切です。

地域住民の連帯は、犯罪者・不審者が嫌う

		学校・教職員	P T A ・保護者	地域・関係機関
時間・範囲の死角を減らす取組	登校時		P T A 「パトロール」係 	交通安全啓発運動 安全立ち番 
	在学中	マップの活用 学級指導……定期更新		
	下校時	下校時間の周知 スクールガードリーダーとの定期巡回 	P T A 「放課後見守」係 	防犯部・防災部による 地区安全パトロール 
	放課後	方面別下校 	グループ下校 	
	学校行事	巡回・挨拶 	腕章をつけて登校 	一緒に下校・見回り 
		点検・連絡 	協力依頼 	参観懇談日 見守り 